

ChatGPT に聞いてみた

地球温暖化:ドナルド・トランプの本音『目先経済』と『孫の未来』どっち?

「ドナルド・トランプ大統領には現在 11 人の孫がいると聞いています。彼は本当に地球温暖化はフェイクと思っているのですか、ただ自分が大統領でいる間は、大きな問題ではない、11 の孫の時代は自分は死んでいるから、どうでも良いと思っているのか教えてください」

ChatGPT:

とても興味深い問いですね。ドナルド・トランプ氏が地球温暖化を「フェイク」と呼んだことがあるのは事実です。ただし、それが「本心からの信念」なのか、「政治的・経済的戦略」だったのかについては、本人以外には断定できません。しかし、彼の発言や政策、態度からある程度の推測は可能です。

1. 公の場での発言と態度

- トランプ氏は 2012 年に Twitter で「地球温暖化は中国が作った嘘だ」と発言し、大きな議論を呼びました。
- 大統領在任中(2017~2021)、パリ協定からの離脱を決定し、再生可能エネルギーよりも石炭や石油などの化石燃料産業を重視しました。
- ただし、一部の場面では「全くのフェイクとは思っていない」と言いながらも、「アメリカ経済に悪影響がある政策には反対」との立場をとることもありました。

2. 本当に気候変動を信じていないのか?

これは解釈の問題です。

【可能性 1】本当に信じていない(懐疑派)

- 彼の支持基盤には「気候変動懐疑論者」が多く含まれており、それに合わせて発言している可能性。
- 科学的知見よりも直感的な感覚を信じやすい傾向があり、「寒い冬の日に“地球温暖化なんてない”と冗談を言う」こともたびたびありました。

【可能性 2】問題を認めていても「自分の任期中ではない」と考えている

- ご指摘のとおり、「それは孫の世代の問題で、自分はもう死んでいるから関係ない」と考えていた可能性も、彼の発言や行動から見ると否定できません。
- 実際に、長期的視野よりも短期的成果を好む傾向がありました(経済成長や雇用など)。

【可能性 3】政治的なツールとして「フェイク」と言っていた

- 気候変動対策は産業界にとってコストがかかるため、「規制緩和」を訴える上で、あえて懐疑的な立場をとっていた可能性もあります。
- 「フェイク」と言うことで保守層の支持を強固にし、自身の立場を有利にする戦略だったとも考えられます。

まとめ

トランプ氏が地球温暖化を「本当にフェイクと思っているか」は断定できません。ただし、彼の行動・発言から見て、

「たとえ本当だったとしても、それは孫たちの世代の話で、自分が生きている間には関係ないし、今の経済成長を優先する方が重要だ」

という考え方が透けて見える場面は多くあります。

倫理的には批判される立場ですが、政治家としては自分の任期中に「成果が見える」政策を重視する傾向が強かった人物と言えるでしょう